

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称) 茨木ビル	階数	地上3F
建設地	大阪府茨木市太田東芝町	構造	S造
用途地域	商業地域、防火地域	平均居住人員	48人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760時間/年(想定値)
建物用途	事務所、工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2020年9月 予定	評価の実施日	2020年10月2日
敷地面積	29,258 m ²	作成者	橋本律雄
建築面積	13,992 m ²	確認日	2020年10月2日
延床面積	31,011 m ²	確認者	橋本律雄



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.1 ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

☆☆☆☆☆

標準計算

① 参照値	138 (kg-CO ₂ /年・m ²)
② 建築物の取組み	46
③ 上記+②以外の	92
④ 上記+	138

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです。

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 3.0

Q1 室内環境

Q1のスコア = 2.9

音環境	3.0
温熱環境	2.6
光・視環境	3.2
空気質環境	3.3

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.5

機能性	3.5
耐用性	3.2
対応性	3.7

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.8

生物環境	1.0
まちなみ	4.0
地域性・	3.0

LR のスコア = 3.2

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.4

建物外皮の	5.0
自然エネ	3.0
設備システ	3.6
効率的	3.0

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.1

水資源	3.4
非再生材料の	2.8
汚染物質	3.7

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.1

地球温暖化	3.7
地域環境	2.7
周辺環境	3.0

3 設計上の配慮事項		
総合	建物の高さをできる限り抑えて圧迫感を低減するとともに、敷地内の法面に手を加えることなく、敷地境界からの後退距離を十分に確保することにより、周辺環境に配慮している。また、災害に対し高い信頼性を持つ建物として計画している。	その他 特になし
Q1 室内環境	1階のエントランスと2階に大きな開口部と吹抜を設け、眺望を楽しむことができ開放感のある演出を行う。最適な空調設備計画、照明計画等にもより、快適な室内環境をつくりあげる。	Q3 室外環境(敷地内) 敷地周囲の法面はそのままし、境界からの後退距離を確保している。空気を確保し道路からの圧迫感の低減等、周辺環境に配慮している。
LR1 エネルギー	特になし	LR3 敷地外環境 外周の柵や門扉などにより歩行者の安全性に配慮している。また視認性・通風の良好なフェンスとすることで、快適性にも配慮している。
Q2 サービス性能	来訪者のゾーンとサービスゾーンを明確に分けることで、快適で最適なサービスの提供ができるように配慮している。またセキュリティ的に安全なサービスが提供できるようにセキュリティラインを明確にする等のセキュリティ計画	
LR2 資源・マテリアル	ガス消火設備はN2消火設備を採用している。	

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■ 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■ 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

大阪府建築物環境配慮評価システム2018年版 大阪府の重点評価(結果)

受付番号

H30-0057

Osakafu-新築・既存 2018V1.0

【建物概要】	建物名称	(仮称)茨木ビル
	建設地	茨木市太田東芝町
	用途/区分	工場 事務所

【評価結果】	CASBEE 総合評価		B+																
①	CO2削減		4																
②	みどり・ヒート アイランド対策		2																
③	建物の断熱性		5																
④	エネルギー削減		4																
⑤	自然エネルギー直接利用		—																
	再生可能エネルギー 利用施設の導入状況	<table border="1"> <tr> <td>太陽光発電</td> <td>—</td> <td>風力</td> <td>—</td> <td>地熱</td> <td>—</td> <td></td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>太陽熱利用</td> <td>—</td> <td>水力</td> <td>—</td> <td>バイオマス</td> <td>—</td> <td></td> <td>—</td> </tr> </table>	太陽光発電	—	風力	—	地熱	—		—	太陽熱利用	—	水力	—	バイオマス	—		—	
太陽光発電	—	風力	—	地熱	—		—												
太陽熱利用	—	水力	—	バイオマス	—		—												

	エネルギー消費量の報告	報告しない
--	-------------	-------

【評価項目】			
項目	評価内容	スコア	評価
① CO2削減	CASBEE「LR3-1」のスコアによる評価	3.7	4
② みどり・ヒートアイランド対策			
生物環境の保全と創出	CASBEE「Q3-1」のスコアによる評価	1.0	2
敷地内温熱環境の向上	CASBEE「Q3-3. 2」のスコアによる評価	3.0	
温熱環境悪化の改善	CASBEE「LR3-2. 2」のスコアによる評価	2.0	
③ 建物外皮の熱負荷抑制	CASBEE「LR1-1」のスコアによる評価	5.0	5
④ 設備システムの高効率化	CASBEE「LR1-3」のスコアによる評価	3.6	4
⑤ 自然エネルギー利用	CASBEE「LR1-2」のスコアによる評価	3.0	—
エネルギー消費の実態把握に努める	エネルギー消費量の実績を3年間報告する。	報告する 報告しない	報告しない

【その他】		
	技術の名称	考慮事項
先進的技術の導入		
特に配慮した事項		